



田村正博 総括と理論 継承の

令和8年3月4日(水) 13:00-17:20

京都ガーデンパレス＋オンライン

京都御所蛤御門前 京都市営地下鉄「丸太町」駅または「今出川」駅下車徒歩8分

プログラム

第1部 13:00-15:10

参加無料
要事前申込

開催趣旨

当研究所の基礎を築いた第2代所長の田村正博（京都産業大学教授・警察大学校名誉教授）は、長きに亘る活動の成果として、警察行政法と社会安全政策のほぼ全体に及ぶ独自の理論を構築し、警察実務を嚮導してきました。今後この理論は、田村じしんの手を離れ、後の世代の研究者・実務家による継承と批判の対象になっていきます。田村の退職という節目にあたり、田村理論のどこに問題があり、どこを継承していくべきか、議論を試みます。

2月25日(水) までに次のFormsからお申し込みください

<https://forms.office.com/r/peydVb3Vj5>



批判
1

米田雅宏氏 北海道大学教授・行政法
田村警察法学と「警察権の限界」論
——ドグマとリアルのはざままで——

批判
2

小山 剛氏 慶應義塾大学教授・憲法
田村警察行政法学における個人情報保護

批判
3

小林良樹氏 明治大学特任教授・国際関係論、政治学
公安委員会制度と民主的アカウンタビリティ
——田村警察行政法学における政治学的視点——

第2部 15:30-17:20

批判への応答

田村正博 当研究所長

継承
1

浦中千佳央 当研究所員・警察学
警察に対する民主的統制の再活性化と実質化

継承
2

新 恵里 当研究所員・被害者学
警察の犯罪被害者支援政策の軌跡
参加者との質疑応答

終了後に懇親会を開催します（会費8000円、当日現金のみ）

**批判
1****田村警察法学と「警察権の限界」論
——ドグマとリアルのはざまで——**

田村警察法学の方法論・特徴を、これまでの研究業績を振り返りながら確認するとともに、その出発点となった「警察権の限界」論否定後の田村警察法学のゆくえを探ります。具体的には、「警察権の限界」論に代わって提示された「警察権限法制の指導理念」を中心に、いわゆる「警察の個人保護型捜査」の意義と射程を検証します。

北海道大学教授 **米田雅宏氏**

**批判
2****田村警察行政法学における個人情報保護**

警察による個人情報の取得・保存・使用は、憲法学における重要テーマのひとつであるとともに、田村正博教授が持続的関心を示してきたテーマでもあります。報告では、田村教授の問題認識と、国家公安委員会によるルール制定および監督という解決案について、近年の（裁）判例を踏まえて批判的に考察します。

慶應義塾大学教授 **小山 剛氏**

**批判
3****公安委員会制度と民主的アカウンタビリティ
——田村警察行政法学における政治学的視点——**

公安委員会制度は、政治的中立と民主的アカウンタビリティの両立を図る制度です。しかし、実際には、前者を重視した解釈と運用がなされてきました。これに対し、田村理論は、改めて後者の重要性に着目し、政治学的な視点を踏まえて現代に適合した解釈と運用論の再構築を図りました。次の課題は、時代の要請を踏まえ、制度の見直しを射程に入れた議論ではないでしょうか。

明治大学特任教授（元高知県警察本部長） **小林良樹氏**

**継承
1****警察に対する民主的統制の再活性化と実質化**

2000年代初頭の警察改革から20有余年が過ぎた今、報道等で警察不祥事が連日報道されるようになっていっています。特に幹部警察官の不祥事も目立ちます。報告では、警察に対する民主的統制の類型を簡単に説明し、現在運用されている公安委員会制度などをどのように再活性化させ、どのように実質的な民主的統制を担保するかを検討します。

京都産業大学教授 **浦中千佳央**

**継承
2****警察の犯罪被害者支援政策の軌跡**

社会から長らく「忘れられた人々」と称されてきた犯罪被害者について、警察が行ってきた被害者政策の軌跡を1990年代から追います。とりわけ、警察庁における「被害者対策要綱」（1996年）の完成と通達は、犯罪被害者の位置づけとその後の支援を変える大きな転換のきっかけになりました。その数々の功績を、民間の支援政策との関連を交えながら報告します。

京都産業大学准教授 **新 恵里**